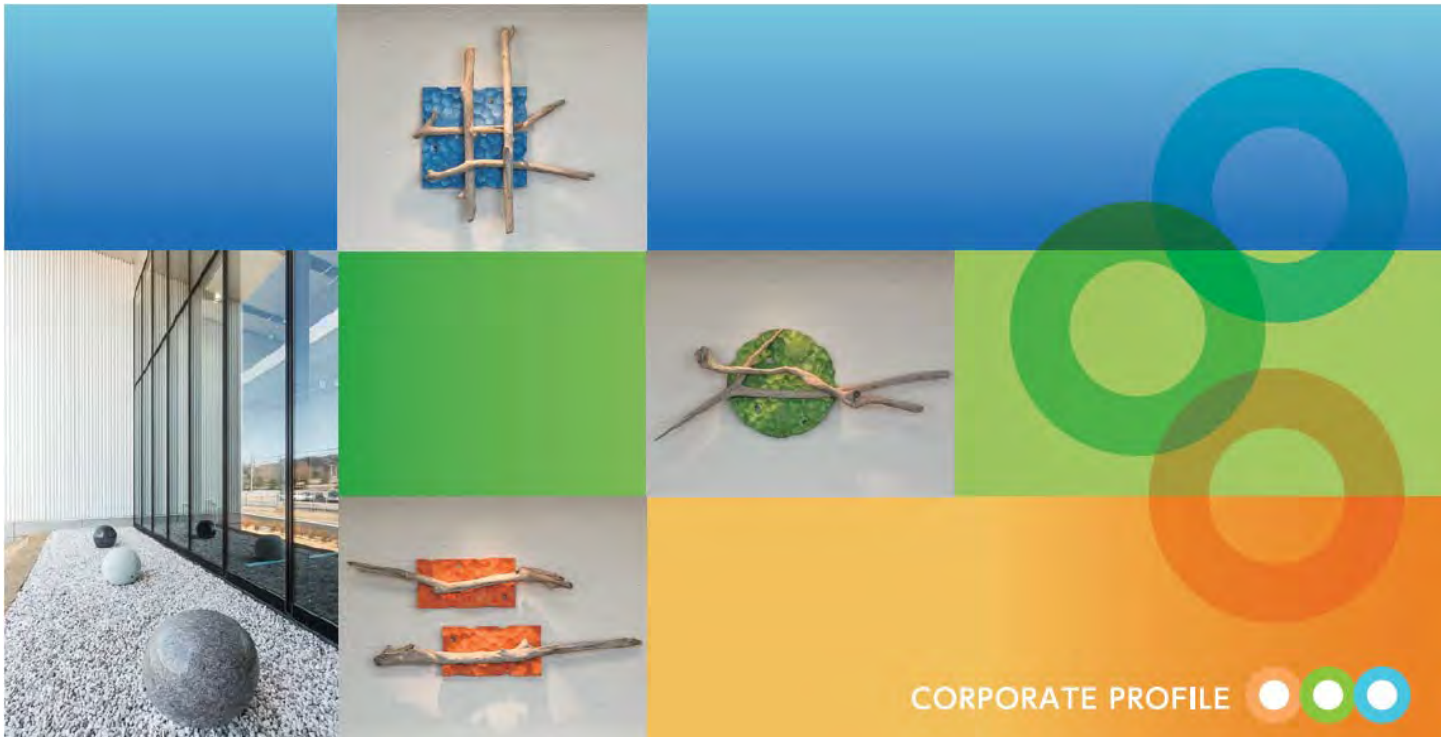


信頼される安心を、社会へ。

**SECOM** セコム工業株式会社



# セコム工業株式会社 環境レポート 2015

セコム工業本社工場建設時の3つのテーマ「安全、環境、高品質」をモチーフとして、自然素材(流木)を用い表現したアート作品。



**安全**：垂直・水平イメージ



**環境**：曲線イメージ



**高品質**：直線イメージ

## 緑の地球を子供達に残そう

# 緑の地球を子供達に残そう



## ■編集方針

本レポートは、セコム工業(株)の環境経営\*1をステークホルダー\*2の皆様にお伝えすることを目的に発行しています。活動内容についてご理解いただけるよう心がけてつくりました。

## ■報告対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日 一部の記事については2015年4月以降の活動を含みます。

## ■参考にしたガイドライン

「環境報告ガイドライン2012年度版」

## ■発行年月

2015年11月

## ■お問い合わせ先

セコム工業株式会社 管理部 環境管理課 TEL：0224-25-6111

○ もくじ	.. 1
○ 会社概要	.. 2
○ トップメッセージ、セコムグループにおけるセコム工業の役割	.. 3
○ セコムの理念	.. 4
○ セコム工業の環境保全活動	
・ 環境経営	.. 5
・ 2014年度 環境目的・目標のまとめ	.. 6
・ 2015年度 環境目的・目標のポイント	.. 9
・ 是正処置及び予防処置の状況	..11
・ 法令遵守(環境ガバナンス)	..11
・ 資源の有効活用	..12
・ 温室効果ガス排出量算定の取り組み(Scope1・2・3の把握)	..13
・ 社会貢献活動	..13

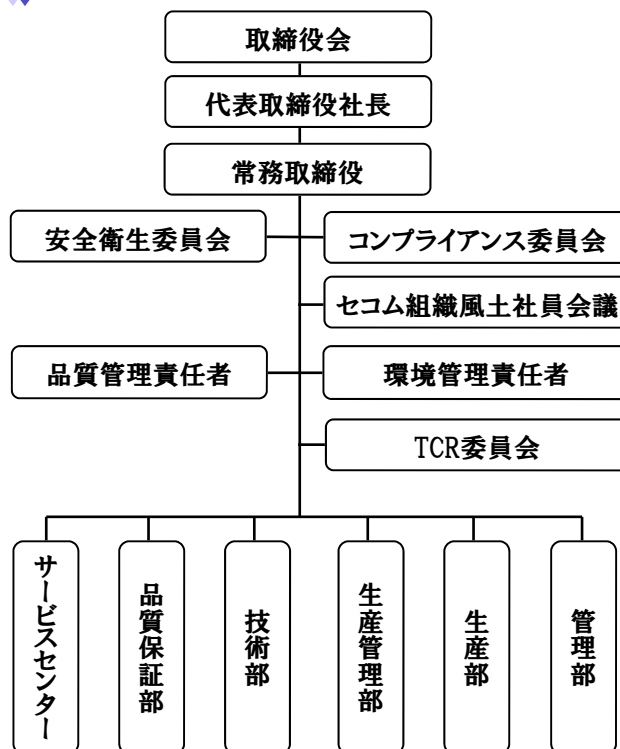
\*1:環境経営 …… 企業と社会が持続可能な発展をしていくために、地球環境と調和した企業経営を行うことです。

\*2:ステークホルダー … 企業が経営活動を行っていくうえでの利害関係者のこと。具体的には、お客様、お取引先、社員、地域社会などが挙げられます。

## 会社概要

社名	セコム工業株式会社 (英名:SECOM INDUSTRIES CO.,LTD.)
創立	1977年10月1日
資本金	4億9,900万円
役員	代表取締役社長 古川 顕一 常務取締役 三浦 寿哉 取締役 鈴木 三男 取締役 進藤 健輔 監査役 宮本 和久 監査役 松本 憲一
従業員数	293人(2015年8月1日現在)
主要製品	セキュリティ・防災関連機器、ハーブ
関連会社	セコムグループ各社
主要取引先	セコム(株) ほか

## 組織図



(2015年4月1日現在)

## 事業内容

### ○ 開発設計

セコム(株)開発センターと協力して、コストパフォーマンスの優れたセキュリティ機器の開発設計を行っています。

### ○ 製造

部品調達から製造、出荷まで、環境負荷の少ない「効率的生産」を目指し取り組んでいます。

### ○ 物流

セコムの物流拠点として、各種セキュリティ機器や工事材料等を出荷しています。

### ○ ハーブの生産(ハイプラント)・ ISOの登録活動範囲外です。

水耕栽培の植物工場で生産されるセコムのフレッシュハーブは16種類。地元企業と協力し、コラボ商品の開発も行っています。







信  
頼  
さ  
れ  
る  
安  
心  
を  
、  
社  
会  
へ  
。

## 〇トップメッセージ

セコムグループは「安全・安心」、そして「便利・快適」な社会を実現するために、“ALL SECOM”で取り組んでいます。

セキュリティの分野では、研究開発から設計、製造、販売、設置工事そして運用・保守までグループで一貫して提供しております。

その中でセコム工業は1977年設立以降、セコムグループ製造部門の中核工場として、常にお客様の視点で考え、付加価値(差異化)のあるセキュリティ機器を提供してきました。

今後とも、自ら考え、行動し、よりお客様にご満足いただけるサービスを提供していきます。

代表取締役社長 古川 顕一

## セコムグループにおける役割

私たちセコム工業にとってセコムグループにおける役割とは、  
グループ内で購入する機器全体の

**Q**(品質)、**C**(コスト)、**D**(納期)及び**E**(環境)をコントロールすること

品質の良いものを適正価格でタイムリーにお客様に提供する。  
それにはまず私たち自身の**QCDEのクオリティ**を  
いかに高めるかを、徹底的に追求することが必要です。

### その役割を達成するために次の行動を実践します

1. 高品質な機器の提供によりお客様満足度の向上を図る。
2. 環境に十分配慮した経営活動によるお客様へのアピールを行う。
3. セコムグループのリーディング工場として、セコムの根幹となるシステムの製造技術力を蓄積する。
4. 常にコストダウンを実践し、適正価格の機器を提供する。



### 「セコム工業」が担う セコムの製造部門

セキュリティ事業の円滑な運営に必要なシステム構成機器を、迅速なスピードと最適なコストを持って提供する。次世代の核となるセキュリティ戦略技術で、高品質な機器を自社生産し、継続的な製造を可能にする。



## セコムの理念

セコムには、社員が常に生き生きとし、組織の力を十分に発揮できるようにするために、創業以来脈々と受け継がれている理念や考え方があります。

代表的なものは、進歩に対する意欲を持ち、現状を打破することで独創的なシステムやサービスを創出する「現状打破の精神」、セコムにとってではなく社会にとって正しいか、公正であるかを判断基準にする「正しさの追求」で、これらの理念の浸透が、セコムの成長・発展の大きな原動力となっています。

また、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様からの信頼をいただくために、セコムでは法ならびに法の精神を遵守し、法令で一般に定めるものよりさらに厳しい、セコム社員としての心得および行動基準を定めています。

### ■「セコムの事業と運営の憲法」

セコムの基本理念である「社会に有益な事業を行う」を常に考えの根底にすえて、事業を行っていくために、セコムグループが実施すべき事業方針を定めています。

### ■「セコムの要諦」

1962年の創業以来培われたセコムの行動原理を基盤として、セコムグループの発展と社員の人的成長を達成するための共通の理念を定めています。

### ■「運営基本10カ条」

「セコムの事業と運営の憲法」を土台として、セコムが「社会システム産業」として発展をするために、そして組織の風土が常に革新的であり、濁りのない清冽なものであり続けるために、あるべき考え方、あるべき姿を、運営の基本方針として定めています。

### ■「セコムグループ社員行動規範」

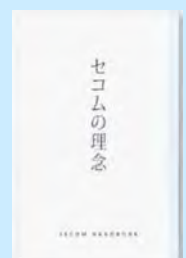
「セコムの事業と運営の憲法」「セコムの要諦」とともに、コンプライアンスの面からみて、いつの時代にも通用する普遍性を持つものとして制定されました。

「セコムグループ社員行動規範」には、セコムグループすべての社員のあるべき姿およびあらゆる業務の根底にあるコンプライアンスに関する考え方が規定されており、社会、お客様、お取引先などとの関係における心得や具体的に遵守すべき行動基準が明記されています。

### 「セコムの理念」(白本)で理念を共有

創業以来、セコムグループの基本的な考え方やあるべき姿、行動原理として培われてきた「セコムの理念」を、「セコムの事業と運営の憲法」「セコムの要諦」などとともにハンドブックとしてまとめて、全社員に配布しています。表紙が白いことから、「白本」の愛称で社員に親しまれています。

「セコムの理念」は、社内報「セコミティ」の巻頭でも毎回取り上げ、理念の共有と実践を徹底させています。



### 世界に広がる「セコムの理念」

海外でも日本と同じ高いレベルの「安全・安心」を提供するためには、マニュアルや規則どおりに業務を行えばよいのではなく、なぜそうするのかという基本的な考え方を理解して取り組むことが重要です。

そこで、「セコムの理念」や「セコムグループ社員行動規範」を各国の言語に翻訳して、組織の一人ひとりに浸透させています。



# セコム工業の環境保全活動

## ～環境経営～

### ■ 環境経営

当社は、セコムグループの先陣をきり、1999年に環境マネジメントシステム(以下、EMS)を導入し、PDCAサイクルを継続的に展開することで、省エネ活動、省資源活動、環境配慮設計を推進し、環境経営を深化させています。

## 環境方針

### 【基本理念】

セコム工業は製品の設計・製造など全ての事業活動が、地球環境問題と深い関わり合いがあることを認識し、環境との調和を経営の最重点課題の一つとして捉え、環境管理システム\*1を構築し、セコム工業の全社員が「緑の地球を子供達に残そう」のスローガンを合い言葉に、環境管理活動の推進、維持向上、改善を継続的に行うため、下記の行動指針を遵守・実行する。

### 【環境スローガン】

『緑の地球を子供達に残そう』

### 【行動指針】

- 1.当社は、環境に与える影響を考慮した企業活動の実践と、製品の提供に努める。
- 2.継続的な環境改善活動を推進し、汚染の防止に努める。
- 3.環境に関係する法規や地域協定および合意したその他の要求事項を遵守する事はもとより、自主管理基準を設定し、環境保全と向上に努める。
- 4.当社の全事業活動について、環境に及ぼす影響を評価し、環境目的及び目標を設定し、改善活動を推進する。また環境目的、目標は定期的に見直しを行う。
- 5.環境方針を環境管理システムにて実行し、維持すると共に、継続的に向上させ、本方針をはじめ環境管理活動に必要な情報を全社員へ周知徹底する。
- 6.環境方針は、社外からの要求に対して開示する。

### ■ 環境負荷バランス (赤文字部分については、施策実施により前年度対比で大幅に改善した項目です) 事業活動によるマテリアルバランスを示します。

INPUT	
電力	2,260MWh
LPG	5.9千m <sup>3</sup>
ガソリン	5.2千ℓ
軽油	1.1千ℓ
水	5.0千m <sup>3</sup>

雨水利用  
30%減

(ハイプラント除く)



OUTPUT	
温室効果ガス	1,123ton-CO <sub>2</sub>
産業廃棄物排出量	21ton
一般廃棄物排出量	9ton

新電力導入  
19%減  
5R+S活動  
28%減

(ハイプラント除く)

\*1:環境管理システム …… 企業が自主的に環境保全に関する取り組んでいくことを「環境管理」といい、そのための体制・仕組みを「環境管理システム(環境マネジメントシステム)」といいます。





## ～2014年度 環境目的・目標のまとめ～

■ 2014年度は、「EMSステップアップ診断 レベル4認定」「新電力導入」「契約電力の削減」などエコ活動部分の施策については全項目達成することができました。

### ① EMSの適切性

第三者審査にてステップアップ診断レベル4認定を受け、継続的改善が顕著であると評価を受けており、EMSはISO14001規格と社内規範に対して適切に機能しているといえます。

2015年度は「ISO14001の改定版への移行準備」を進めていきます。

### ② EMSの妥当性

事業の活動・製品・サービスによる環境影響を勘案し活動テーマを設定しており、各種の施策実施により、利益の継続的創出、環境パフォーマンス改善につながっています。

2015年度も引き続き「事業規模拡大への体制整備」に向け、各種計画を掲げ活動していきます。

### ③ EMSの有効性

1999年11月に認証取得して以降、環境負荷低減に関する継続的改善の実施が行われており、EMSが有効に機能しているといえます。

2015年度は全体最適化に向け「ISO9001とISO14001の統合MS審査」を受審します。

## 環境マネジメントシステムの第三者評価

### ■ ステップアップ診断レベル4認定

(JQA登録組織 約5000組織中 レベル4認定は※22組織のみ)

当社は、従来から継続的にEMSの向上に取り組んでおり、2014年9月に取り組み内容について第三者機関(JQA)に評価いただきました。

その結果、組織の内部統制(内部監査)、企業の社会的責任(法遵守、情報開示・透明性)などで非常に高いレベルの評価をいただき、総合評価においても5段階中で「4」という高評価を受け、これまでの取り組みがEMS向上に大いに役立っていることが確認されました。

今後も更なる改善を図り、EMSの向上に努めていきます。

5段階評価 ・ 5:クラス最高(※認定組織なし)、4:継続的改善強調(※実質最高の評価)  
3:安定・正式システムアプローチ、2:受動的アプローチ、1:基本システム構築  
※は 当社が認定を受けた2014年10月にJQAに確認した時点の内容です。

# セコム工業の環境保全活動

## ～ 2014年度 環境目的・目標のまとめ ～

### 1. マネジメントシステムの有効性向上

全て達成

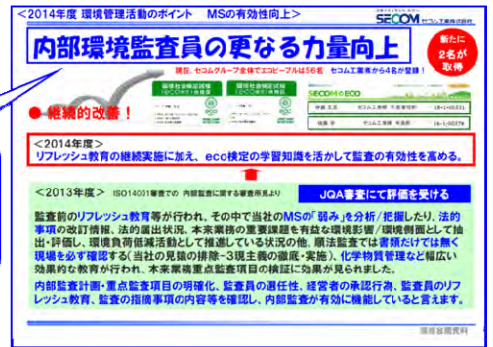
● 2014年度  
エコ活動部分の施策は  
『全て順調に実施！』



Good! ①EMSステップアップ診断の受審



②内部環境監査員の更なる力量向上



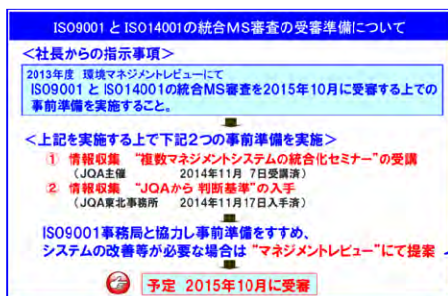
e c o 検定

7月 2名合格!  
12月 1名合格!

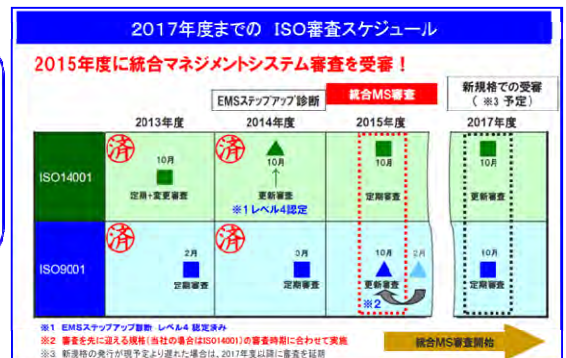
### 2. ビジョン2015への体制整備

全て達成

①品質と環境の統合MS審査の受審準備



<2014年度>  
情報収集 11月  
↓  
ポイントまとめ  
↓  
会議で報告 11月



Good! ②中期3ヵ年計画「5R+S活動」の更なる推進



<2014年度>  
計画値 ▲10.0 t  
実績値 ▲16.3 t  
達成率 163%  
削減金額 ▲173.5万円





## 3. 環境パフォーマンスの更なる向上

全て達成

### ① 新電力導入によるコストダウン、CO<sub>2</sub>削減

＜環境パフォーマンスの更なる向上 新電力＞  
SECOM environmental

「経済性と環境性に優れた電気購入先へ変更」

**計画を2カ月前倒し、**  
2014年7月1日から変更

「経済性と環境性に優れた電気購入先へ変更」  
※ 新電力導入による効果は以下の通りです。

1. 電気購入先 (電気(従来電力) → (変更後) 東北電力)  
2. 対象施設 1.本社 2. 営業課 3. 営業課 4. 営業課  
3. メリット ① 電気料金 約100万円/年 コストダウン  
② CO<sub>2</sub>排出量 約200 ton/年 削減  
③ 環境性能向上 (CO<sub>2</sub>削減)  
4. デメリット 特になし (電気料金削減・環境性能向上は両方あり)

5. 変更時期 変更1日前からの変更

「経済性」「環境性」に優れている

### ② デマコン導入による契約電力の削減

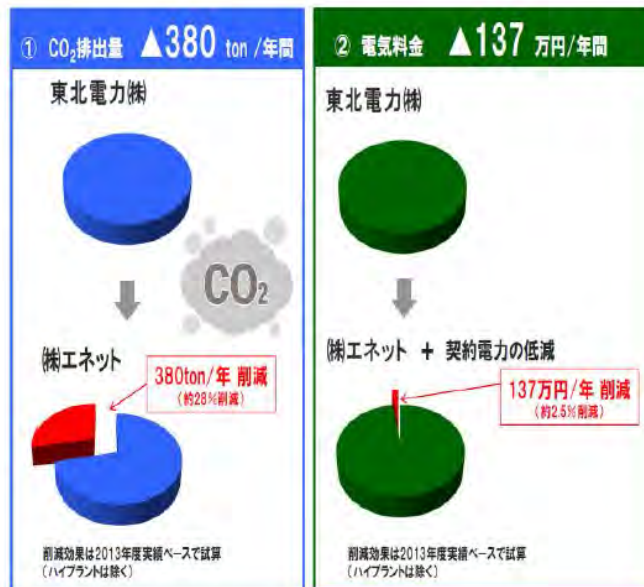
＜環境パフォーマンスの更なる向上 契約電力の削減＞  
SECOM environmental

契約電力 (現在) 860kW → (変更後) 840kWへ

**計画を7カ月前倒し、**  
2014年8月1日から変更

＜7カ月前倒しの経緯＞  
契約電力削減による効果は、削減した電力を他の用途に活用し、削減効果の最大化を図りました。また、削減した電力を他の用途に活用し、削減効果の最大化を図りました。

＜効果金額＞  
約 368,000円/年  
の削減



2014年度の効果  
※ 新電力導入が7月、契約電力削減が8月と年度途中からの施策実施であることから下記効果である。

CO<sub>2</sub>排出量削減 ▲266 ton/年間  
電気料金削減 ▲100万円/年間

## 3. 環境パフォーマンスの更なる向上

全て達成

### ③ 雨水の再利用ほかの施策実施による 上水使用量の削減

#### ＜雨水の再利用ほか＞



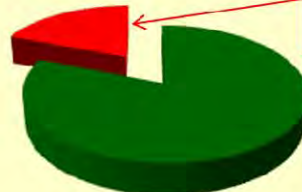
上水使用量の削減



削減効果は2014年度実績  
(ハイプラントは除く)

2013年度対比  
**2,200m<sup>3</sup>/年削減**  
(約30%削減)

上水使用料金の削減



削減効果は2014年度実績  
(ハイプラントは除く)

2013年度対比  
**75万円/年削減**  
(約19%削減)

#### ＜節水型施設の導入＞

**GREEN** 少ない水で、しっかり便器を洗浄。  
超節水、4.8L洗浄。

TO TO独自の洗浄方式が、洗浄性能を保ちながら超節水の4.8L洗浄を実現。4.8L洗浄機器が勢ぞろいしました。従来のトイレに比べて約71%も節水し、水道代は年間約14,200円もお得になります。さらにネオレストには3.8L洗浄タイプも登場し、家庭でできる節水、世界の水資源の保護とCO<sub>2</sub>削減につながります。

標準 従来の洗浄水量 約53.582Lの水  
240L × 約223杯

4.8L  
約71%節水

従来品と比べて年間約14,200円おトク!

標準品\*\* ネオレストAH-RH(標準型)、レストH4.8L、レストH4.8L、レストH4.8L、レストH4.8L、レストH4.8L、レストH4.8L、レストH4.8L、レストH4.8L、レストH4.8L、レストH4.8L

本社工場に  
56台設置

# セコム工業の環境保全活動

## ～ 2015年度 環境目的・目標のポイント ～

環境目的	2015年度目標
マネジメントシステムの有効性向上	1. ISO9001とISO14001の統合MS審査（2015年9月受審） 2. ISO14001の改定版への移行準備（2017年9月受審） 3. 内部環境監査員の更なる力量向上
環境パフォーマンスの更なる向上	1. 各部署の日常管理活動 ① ムリ・ムダ・ムラの改善 ② 作業工数の削減 ③ 構成差異 など 2. 省エネ、省資源施策の実施 ① 上水使用量の削減（雨水利用量の増加） ② サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量の算定 ③ 契約電力の削減 など 3. 環境意識の高揚 ① SECOMの「エコビープル」の推進 ② 生物多様性の取組み ③ 情報開示の推進 など
事業規模拡大への体制整備	1. 中期3ヵ年計画「5R+S活動」の更なる推進 産廃排出量 13t 削減（2012年度対比 原単位15%相当削減）
法令違反「ゼロ」の維持	監視・測定の実施

## 2015年9月 ISO14001とISO9001の統合MS審査を受審

【統合のメリット】

**Slim** (審査日数の短縮)、 **Synergy** (部分最適から全体最適へ)、 **Simple** (わかり易く使いやすい)



<2015年度>

統合MS審査  
(ステージI)にて受審



- ① 審査日数の短縮 **ステージI 0.5日/人低減**（8.0日/人 → 7.5日/人）
- ② 審査の負担軽減（日程調整、受審準備、各種会議などが**2回/年→1回/年**）



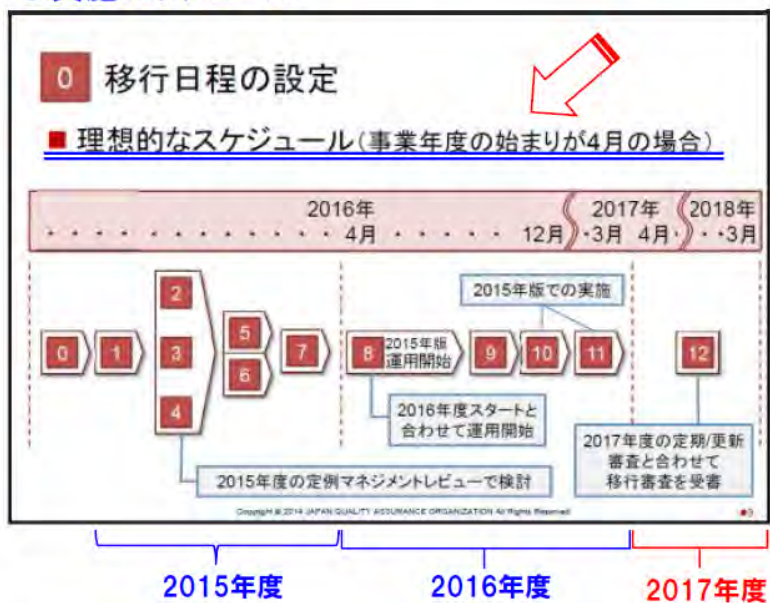
# ISO14001 規格改定版への移行準備(2017年9月受審)

 JQAが推奨する 移行審査までの理想的な計画に従い、移行作業を実施します。

## ●実施事項



## ●実施スケジュール



JQA ISO14001規格改定説明会資料もとに編集

# 2017年度までの ISO審査スケジュール

	2013年度	2014年度	2015年度	2017年度
ISO14001	<p>済</p> <p>10月</p> <p>定期+変更審査</p>	<p>済</p> <p>10月</p> <p>更新審査</p> <p>※1 レベル4認定</p>	<p>9月</p> <p>定期審査</p>	<p>9月</p> <p>更新審査</p>
ISO9001	<p>済</p> <p>2月</p> <p>定期審査</p>	<p>済</p> <p>3月</p> <p>定期審査</p>	<p>9月</p> <p>更新審査</p> <p>※2</p> <p>2月</p>	<p>9月</p> <p>定期審査</p>

※1 EMSステップアップ診断 レベル4 認定済み

※2 審査を先に迎える規格(当社の場合はISO14001)の審査時期に合わせて実施。また、登録有効期日の2ヶ月前審査の義務付けにより審査月が10月から9月に変更。

統合MS審査開始 



# セコム工業の環境保全活動

## ～是正処置及び予防処置の状況～

### ■第3者審査（更新+ステップアップ診断）

改善の機会について真摯に受止め、更なるレベルアップへ向け取り組みました。

第3者審査 (JQA)	良い点	悪い点	指摘事項	改善の機会	改善実施
			実施日 2014.9.30 ～ 10.2AM	2件	

①施策・手段の実現性、効果が明確な実施計画の作成  
②監査員の選任時の適切性向上

### ■内部監査

マネジメントシステムの「弱み」の分析/把握等から、重点監査項目を定め、EMSの適合性、有効性向上に有効な内部監査を実施しています。

内部監査	良い点	悪い点	指摘事項	改善事項	改善実施
			実施日 2014.8 ～ 2015.1	7件	

①悪い点はタイムリーに改善し、改善完了



## ～法令遵守(環境ガバナンス)～

法的及びその他の要求事項確認規程に基づき、遵守評価を実施した結果、全ての項目を順守していることを確認しています。

- 評価範囲 : 当社の事業活動、製品及びサービスが環境側面に、適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項
- 評価実施 : 2014年度内部監査の重点監査項目として実施
- 評価方法 : 「セコム工業関係法規制調査表」の要求事項に基づき評価
- 評価結果 : 適合



## ～資源の有効活用～

### ■「環境配慮設計」の推進

商品やシステムの開発・設計において、環境保全、資源の有効利用、長期使用など環境への影響を考慮した「環境配慮設計」を実践しています。

#### 「グリーン設計ガイドライン」

サプライヤーに対して「グリーン設計ガイドライン」を発行し、製品の省エネルギー性能の向上や減量化・減容化などについての遵守を要請しています。特に、有害化学物質の管理については、セコム独自に使用禁止16物質を定め、「化学物質非含有保証書」を提出して頂いています。



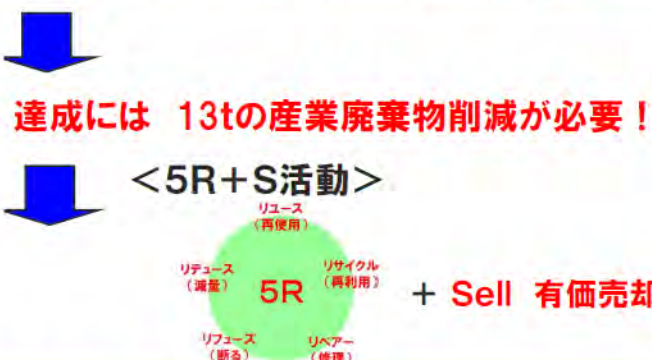
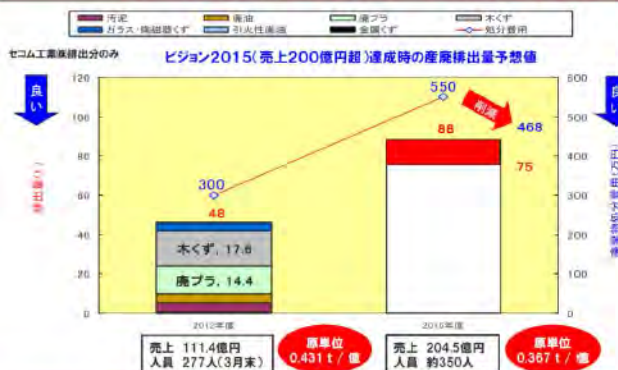
### ■「グリーン購入」の推進

日常業務で使用する事務用品やコピー用紙などの消耗品においては、環境負荷の少ないグリーン商品の購入を継続して行っています。

### ■ 5R+S活動 \*1 の推進（中期3ヵ年計画）

2013年度からは、5R+S活動による産業廃棄物の排出量削減に取り組んでいきます。

**事業規模拡大への体制整備**  
5R+S活動の推進により、売上高原単位で15%の改善（2012年度対比）



2013年度	▲ 5.4t の削減 (2012年度対比)	→ 9.7t 削減 (達成率180%)	👍 Good!
2014年度	▲ 10.0t の削減 (2012年度対比)	→ 16.3t 削減 (達成率163%)	👍 Good!
2015年度	▲ 13.0t の削減 (2012年度対比)	2013年度からの施策継続分 約11.5t + ※追加施策1.5t が必要 (廃プラ処分品の削減)	

\*1: 5R+S活動 ……5R (Reduce, Reuse, Recycle, Refuse, Repair) + S (Sell 有価売却) による産業廃棄物の排出量削減活動です。

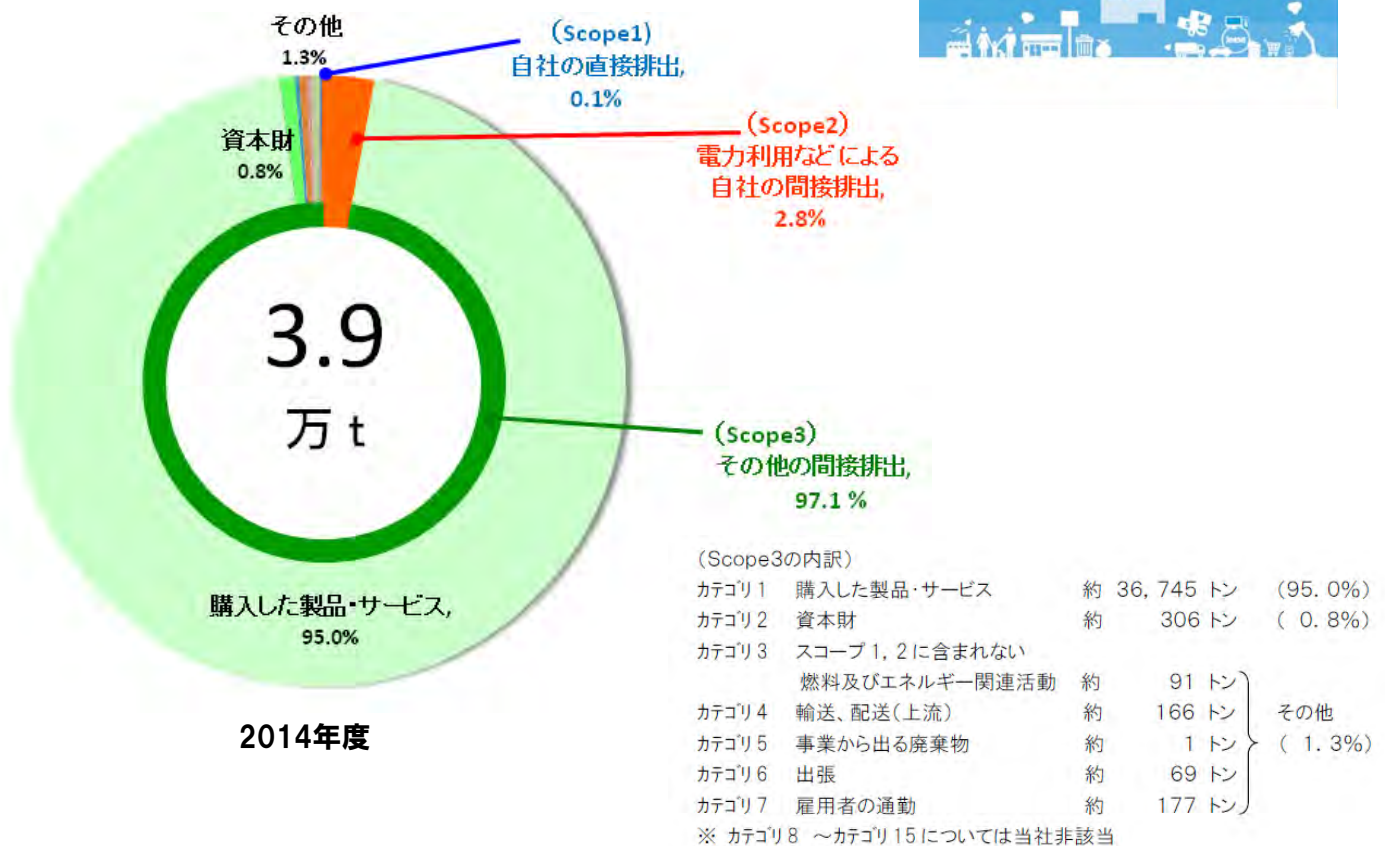
Reduce(ゴミを減らす)、Reuse(再使用)、Recycle(再利用)、Refuse(ゴミになるものを断る)、Repair(修理)

# セコム工業の環境保全活動

## ～温室効果ガス排出量算定の取り組み（Scope1・2・3の把握）～

当社のセキュリティ事業について、サプライチェーン全体から排出される温室効果ガス排出量の算定を行っています。事業活動に伴う直接排出であるScope1、間接排出であるScope2および社外の排出であるScope3を加えた2014年度の温室効果ガス総排出量は、約3.9万トンでした。

今回の算定にあたっては、環境省の実施する「平成26年度金融機関等向けサプライチェーン排出量等の情報開示基盤整備事業委託業務」の一環として、サプライチェーン温室効果ガス排出量の算定支援を受けています。



## ～社会貢献活動～

### ■ エコキャップの回収・寄付

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届けよう！という活動に賛同し、2014年度は約137千個をNPOエコキャップ推進協議会へ寄与しました。

### ■ 使用済み切手の回収・寄付

使用済み切手を集めて海外医療強力に役立てる！という活動に賛同し、2014年度は約1.7kgを公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)へ寄与しました。



## ～社会貢献活動～

### ■ 環境出前教育

地域の環境ISO取得企業7社が協力し、近隣の小学校にて生徒を対象に環境出前教育を実施しました。



※ 講師は「SECOMのエコピープル登録者」



- ← ①2014年度は下記2校にて実施しました。
- 白石市立白石第一小学校様 (4年生 68名)
  - 白石市立深谷小学校様 (4、5、6年生 27名)



↑ ②地元広報紙(白石市、蔵王町)にも、環境出前教育の記事が掲載されました。

### ■ 清掃活動

環境意識啓発・向上を目指して、会社周辺の清掃活動を実施するとともに、地域で開催される白石市沢端川清掃活動にも家族も含め積極的に参加しています。

#### サンキューロード清掃活動 (本社・宮城第1物流センターの周辺)



#### 白石市沢端川清掃活動 (地域で開催される清掃活動)



#### 会社周辺の清掃活動 (宮城第2物流センター・ハイプラントの周辺)



信頼される安心を、社会へ。

**SECOM** セコム工業株式会社

〒989-0295

宮城県白石市福岡深谷字南沖8-1

<http://www.secom-kogyo.co.jp/>